

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500536
法人名	有限会社 すまいる
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	伊予郡砥部町北川毛1442番地16
自己評価作成日	平成23年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の気持ちに寄り添い、安心して過して頂ける環境作りやコミュニケーションを大切にしています。
 また、現場での職員一人一人の意見を大切に、皆で考えて作り上げていけるホームを目指しています。
 ・個々の状態に合わせた排便観察を行い、出来るだけ自然排便を促せるよう、水分補給の促しや適度な運動、食べ物にも留意しています。
 ・体調に合わせ、足浴、マッサージ、立位、歩行訓練、可動域訓練や筋力低下防止になるようなケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然環境に恵まれており、利用者は季節を感じながら日々過ごすことができている。床暖房が完備され、寒い季節も快適に過ごす事ができるようになっている。玄関や居間は、家庭的な雰囲気づくりがされ、季節に応じた花や手作りの物が飾られている。事業所は町内会に加入し行事に参加したり、清掃活動など地域の一員としての役割も担っている。かかりつけ医の往診が月に2回あり、職員は利用者の健康面の把握もできている。また、緊急時には連絡体制が確保されており、利用者や家族も医療面で安心感を得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム すまいる
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	池田 正代
評価完了日	平成 23 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分が住みたい場所」という事をキーワードにケアする時も常に自分に置き換えて見ると言う事を職員間で話し合い、意識づけしています。またホームが特別な存在ではなく、地域に根付いた開かれたものとして地域住民に溶け込めるよう、地区行事の参加やご近所との朝夕の挨拶等交流に努めています。</p> <p>(外部評価) 「自分が入居したくなるホームを目指す」ことを理念に掲げ共有しながら、地域の中で利用者の日々の暮らしを支えている。具体的なケア目標も作り、職員は常に自分に置き換えて考え、利用者にとって居心地のよい場所であるように心がけ、利用者主体のケアを実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区行事に参加したり、当ホームの行事には子供会や地区の役員さんの参加を呼びかけ、地区の一員として暮らす事を心がけています。ご近所からおすそ分けを頂いたり、近所の子供達が遊びに来てくれる事もあります。又、事業所自体も町内会の加入や回覧板の持ち回り、清掃活動等、地区住民と変わらない役割分担をしています。</p> <p>(外部評価) 事業所は町内会に入り、地域の秋祭りや小学校の運動会等に参加したり、地域の清掃活動に参加する等、地域の一員としての役割を担っている。回覧板で地域の情報が得られている。ボランティアの訪問や近所の子供達が気軽に遊びに来てくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進委員会のメンバーに在宅で認知症介護されている方もおられ、話を伺ったり、アドバイスさせて頂く機会も増えました。また、地域密着型になってからは、利用者や面会の方もスタッフの顔見知りである事も多くなり、以前より認知症介護の話題や相談が多く出るようになったので、少しは貢献出来ているかと思えます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の話題には、昼食会や消防訓練等、様々な行事への参加をして頂き、見学して頂く事で、多くの意見を出して頂く様にしています。また、外部評価のある年は評価結果も議題に取り上げ、話し合いを持つようにしています。	
			(外部評価) 会議には家族、地域住民、町の職員等の参加を得て開催している。食事会や消防訓練も兼ねて行う時には利用者也参加している。職員も交替で参加するようになっている。事業所の状況や活動報告の他、議題に沿って話し合ったり意見交換を行っている。出された意見はサービスの向上につなげている。	家族や地域の方へはホームページで会議の案内を行っているが、参加者が固定化傾向にあるため引き続き声かけを行い、様々な立場の方に参加してもらう等、今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村には定期的な講習会があり、参加しています。他に町の派遣事業の相談員が毎月訪問し、利用者の要望を聞いて下さり、担当職員と話し合いを持ったり、町担当課との連絡役となって下さっています。利用者に関する申請手続き等でも、随時、担当課を訪れています。	
			(外部評価) 町の介護福祉課の職員が運営推進会議に出席してくれており、日頃から連携がとれている。町主催の研修会が3か月に1回あり参加している。その際、他のグループホームの職員と交流する事ができ、情報も得られている。また、月に1回介護相談員が2名来所し利用者とは面談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ホールの入り口は夜間の防犯以外には施錠はしておらず、職員の見守りを重視しています。また施設内研修や回覧等での資料提供も行い、その意義を高める様、常に話し合いを持つよう努めています。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアを実践している。職員アンケートを実施し、職員会で話し合いを行っている。玄関は施錠しておらず、センサーを取り付けているが、見守りで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に一度、アンケート調査を実施し、日頃の支援を振り返り、職員会で話し合い、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用されている方もおられ、外部研修にも出来る限り参加しています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族には十分な説明、話し合いをし、納得して頂いた上で契約しております。 契約後改正の加算報酬についても前もって文章にて連絡する等、その都度対処し、納得して頂いております。 また、長期の利用や重度化に伴う料金の負担など、必要に応じてご家族と相談させて頂いております。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 当ホーム内での苦情委員会の設置をご家族に明示し、ケア方針の説明も個別に行う機会を設け、その中で意見交換するようにしています。又面会時には管理者や職員がご家族と話す機会を持てるよう努めています。家族の心情も察して第三者苦情委員会の窓口も契約書類に明記しています。 (外部評価) 利用者に直接聞いたり、家族の訪問時や運営推進会議等で意見を聞くよう心がけている。家族が遠方にいる場合は、利用者に変化があれば必ず電話連絡を行い、希望や要望を聞いている。出された意見は、話し合いを行いサービス向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は職員会で意見や提案を聞く機会を作ったり、出来るだけ現場の声が聞けるよう個別に話かけたりしています。また運営者も個別に話しが出来る様、懇親会や幹部ミーティングを実施し、多くの意見を取り上げ反映出来る様、努めています。</p> <p>(外部評価) 2か月に1回ユニット毎に職員会を開催し、職員から意見を聞いている。管理者は開設時から勤務しており職員の定着率もよく、気軽に意見が言える関係ができています。また、運営者も職員の意見を聞く機会を設けており聞き取った意見は、運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 給与水準については同業他社等と情報交換し、一般水準は確保するよう努めている。 労働時間についてはなるべく残業しなくて良いように効率の良い仕事出来る環境整備を行っている。 やりがいについては職員個々が見出すものだと思う。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修を希望するものについては積極的に受講するよう推奨し、受講費用等の負担は会社にて行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 代表者、管理者レベルでの交流は行っているが、職員については個々に任せている。人員に余裕が出来れば取り組んでいきたい。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者ご本人が見学に来られない場合も、こちらから面会に伺い話を聞かせて頂きコミュニケーションをとりながらご本人を知る事、私たちを受け入れて頂くことから始めています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも面接時や契約時には十分な話し合いを行い、意向を確認しながらケアの方向性を決めて説明しています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い本人の現状を把握し、医療的なサービスの提供の必要がある場合等は医師と相談の上、外部のサービスも取り入れたり様々なサービス案を検討しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事やおやつ等、一緒にテーブルで過ごす時間を大切に、常に利用者の傍らに寄り添いながら共に生活している仲間という意識で、それぞれが出来る事を一緒に行っています。また、会話をする中で利用者から学ぶ事も沢山あります。利用者も自分主体の場面設定では、生き生きした表情が伺えます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には食事介助や散歩等を一緒に手伝って頂いたり、外出レク時にもお誘いしています。また日常生活の中でご本人が家族さんに関わる言葉や思い出が話されたりした時には、面会時に話しの話題にさせて頂き一緒に過ごしていない時間の距離を埋めて頂けるよう努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 職員同士の情報交換を常に持ち、ご本人、ご家族からアセスメントした交友関係も出来る限り把握してケアにあたっています。たとえばご本人がよく買物に行かれていたスーパーに買物に出かけたり、知り合いにお会いした時には少しでも話しが出来る時間を作っています。 (外部評価) 町内の方が多く入られており、利用者同志が幼馴染みだったり、職員も知り合いである等、昔の懐かしい話をみんなですることもある。近くの蓮池の花や蓮根掘りの見学等は恒例の行事になっている。近くのスーパーに買い物に行ったり、町の文化祭に出かける等馴染みのある場所にも出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一つのテーブルに集って話しをする機会を作ったり職員が橋渡しをする事で、普段あまりお話をされない方でも楽しく会話されています。また個人の性格を把握し相性も考慮してテーブルの配置等も気をつける事で、それぞれが出来る事を助け合い生活されていると思います。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家庭の事情で住み替えが必要となった方には移り住む先の関係者と今までの生活状況を詳しく説明する機会を持ったり、ご自宅に戻られた方には、電話連絡等でその後の様子を伺ったり、少しでも相談に乗れる様努めて来つもりです。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者と共に過す時間を重視し、会話や仕草の中から本人の意向や希望を把握し、出来る限り希望に副えるようケアカンファレンスを行い、実行出来るよう取り組んでいます。困難な場合にも職員間で情報交換し対応できるよう努力しています。 (外部評価) 日々の暮らしの中で利用者に聞いたり、家族の訪問時に要望を聞いたりしている。利用者との会話の中から情報を得たり、表情や態度等からも把握して支援している。職員が得た情報は、回覧ノートや業務ノートに記録し申し送りを行い、職員間で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日頃の会話の中で本人の生活歴が聞けるような働きかけをしたり、家族面会時には出来るだけ多くの情報を頂ける様、話し合いを十分に行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 時間の許す限り寄り添い、心身状態の変化を見逃さない様、努めています。 また、個別の介護記録や健康管理表に記録し、スタッフ全員が目を通す事で、常に情報交換出来るようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には家族の希望も事前にお聞きし、常にスタッフ全員で定期的にモニタリングして意見交換しています。また担当スタッフによる計画案を反映し、全員が同じケアに取り組む中で日々起こる問題点や改善点を早急に対応する為、常に意見交換する事を心がけています。 (外部評価) 利用者や家族の希望や要望を聞き、担当の職員が原案を作り、職員で話し合いを行い介護計画を作成している。計画の実践状況は、ケアチェック表に記録している。また、ケアカンファレンスで計画についても話し合いを行っており、3か月に1回モニタリングを行い必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録や情報交換ノートの活用により生活、身体状況を把握し、ケアカンファレンスを定期的に行い職員間で共有する事で見直しに活かす事が出来ていると思います。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅マッサージやリハビリ通院の介助、衣料品や食料品の買物に同行したり、時には外食等本人の要望や身体的状況に応じて多機能化に取り組めるよう努力しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 警察、消防、地区消防団の方には日頃から災害時等の協力をお願いしています。また町の文化祭や小学校運動会等、行事への参加や地域住民の方のボランティアもお願いし、来て頂いております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホーム担当の主治医がいる為本人及び家族に事前に説 明し納得して入居して頂いてますが、長年のかかりつ け医がいる場合は主治医と相談しながら出来る限り本 人の希望に沿えるようよう支援しています。 (外部評価) ほとんどの利用者が事業所の協力医療機関をかかりつ け医としており、月2回往診してもらっている。往診 記録により、職員も利用者の健康面の把握を行って いる。眼科や皮膚科等の受診は、利用者の希望を優先さ せて支援している。受診は家族が行く場合もあるが、 職員が同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内にも看護師がおり、医療面での状態変化のも早 急に気づいて対応出来る様にしています。また協力医 療機関の看護師は、往診、受診時には必ず同行して利 用者の状態も把握して下さっており、電話や面会での 相談も気軽に出来る関係を築いています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関が総合病院であり、入院の殆どのケース が協力機関への入院の為これまでに日常的にも情報交 換や相談が出来ています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りを行った経験はまだありませんが、ご本人、家 族の意向を、出来る限り尊重したいと考えておりま す。 運営推進会議でも取り上げ、ご家族、行政とこれか らの方向性について、話し合う機会を作っています。 (外部評価) 看取りの指針を作成し、利用者や家族の希望があり、 事業所で看る事が可能である場合は、看取りをするこ とを方針としている。利用者の状況に応じてその都 度、かかりつけ医、家族、運営者、管理者、職員で話 し合いを行い、支援する事としている。	利用者の重度化や終末期を事業所で支援するため には、かかりつけ医との連携や家族、管理者、看護師、 介護職員等チームでの支援が必要である。重度化や終 末期におけるケアについての職員の教育や研修の受講 等を継続して行うことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではありませんが、年に1、2回施設内研修を行ったり、外部研修の参加を実施しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に一度消防署にご協力して頂き、ご家族や地元住民の方にも参加頂いて、防火訓練や非難訓練を行っています。また地域消防団、地区役員、ご近所の方へ常に協力をお願いをし、承諾を頂いています。 (外部評価) 年に1回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行い、アンケートを実施して意見交換している。スプリンクラーの設置もしている。地域の消防団の方等に協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけには十分注意し、相手の気持ちになって考えながらの対応を心がけています。 たとえば、当たり前の事ですが、個々の名前をきちんと呼んだり、自力でゆっくり食事する利用者を急かす事なく見守ったり、トイレ誘導を小声でさりげなく行ったり、着替えやトイレ時の介助の際、ドアをきちんと閉める等、プライバシーに十分配慮するようにしています。 (外部評価) 職員の声かけは穏やかで、昼食時の会話からも利用者との信頼関係がうかがえる。食事に時間がかかる利用者に対しても、声かけをしながら見守っている。歯磨きやトイレの誘導もさりげなく行われており、着替えも部屋で戸を閉めて行う等、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 顔の表情や仕草等を見て、本人の訴えを見逃さない様、心がけています。また、声かけや促しだけでなく、色々な場面設定をしながら、ご本人が自己決定出来るような働きかけをしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 会話の中で希望を伺ったり個々の性格にあったご本人が出来る事を見出して促しを行います、無理強いをしないように心がけています。また食事や入浴以外の空き時間は、出来る限り本人のペースを大切に出来るよう見守っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服等汚れ物をさりげなく交換したり、本人の好みを取り入れ、季節、天候に合わせた洋服を本人が選べるよう場面設定を工夫する事で支援しています。それぞれに、気に入った化粧品や装飾品等も使用しておられます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物を取り入れたり、献立を一緒に考えたり、食事の支度を手伝って頂いたりしています。食事形態や食器、スプーン等も個々により様々で、ご自分の力で少しでも食べれるように支援しています。 また、食事中は好きな音楽を聴きながら、ゆったりした環境の中で、職員や他の利用者とも会話を楽める様、橋渡しをするなどの支援に努めています。	
			(外部評価) 食事は利用者の希望を聞いて、季節の物を取り入れながら献立を立て、調理担当の職員が利用者の状態に合わせて調理している。利用者の重度化と共にできる事は少なくなってきたが、できることは無理のないようしてもらっている。職員は利用者の横に座り、利用者に声かけしながら一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材に野菜を多く取り込み、1日のメニューでなるべく重ならない様にしています。毎食後の食事量をチェックしたり、水分もバランスを考え、色々な飲み物にして提供しています。また、2週間に1度は体重測定を行い、個々の健康管理にも留意しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の健康状態、能力に応じて見守り、介助をしています。週に1度は義歯洗浄を行い、舌ブラシやガーゼ、歯磨きティッシュを利用し、個々の能力に合わせて見守り、介助を行い、口腔状態の観察に留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表の活用で、一人一人の排泄パターンを把握し、時間を見て声かけやトイレ誘導を行い、出来る限り失禁をなくすよう努めています。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し支援している。自分から意思表示する人もいるが、時間を見て声かけを行い誘導している。夜間は定期的に訪室する等、利用者の状態に合わせて対応している。排便については、水分や食事等気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく薬に頼らない様、ヨーグルトや寒天ゼリーなどを摂取して頂いたり、水分補給にも留意しています。また、腹部マッサージや適度な運動を促し、予防にも努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 設備上の問題から、曜日や時間帯は決まっていますが、入浴の順番など、その日の気分や体調により配慮しています。入浴中もご本人が安心出来る様、職員が声かけや会話に気を配ったり、入浴剤等の使用で、香りを楽しんで頂いたり、利用者がくつろいで入浴出来るよう努めています。	
			(外部評価) 利用者の希望に沿って入浴支援を行っている。利用者の入浴日も把握して、気持ちよく入ってもらえるよう心がけている。1階の浴室には座位で入れる設備が整っており、状態に応じて安楽に入れるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内温度、明るさ、音に気を配り、個々に合わせた睡眠が確保出来るよう支援しています。また寝付けにくい方には飲み物の工夫や声かけにも気をつけ、安心して眠れるよう体調管理にも留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を職員全員が目を通し、連絡ノートの活用により変更等の確認が出来るようにしています。服薬支援時もダブルチェックをし、誤薬や飲み忘れがない様注意し、状態変化も細かく記録に残すよう努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を活かし、機能、能力に応じて本人の出来る事を楽しんで頂ける様、支援しています。今ではそれぞれに役割が出来ており家事や新聞とりなど、ご本人から声をかけて下さる事が多く、職員のお礼の言葉に笑顔で答えて下さる場面も見られます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外気を浴びれるよう散歩や外気浴の促しを行い、希望に副って、買物やドライブに出かけるなどの選択が出来る様な働きかけをしています。住み慣れた地域での交流も促せるよう、地区行事の参加を積極的に行っています。 (外部評価) 事業所の周囲には季節を感じる事ができる自然があり、天気の良い日には散歩に出かけている。利用者の希望に応じて買物や喫茶店に出かけたり、ドライブに行くこともある。地域の行事等にも積極的に参加できるように計画を立て支援が行われている。家族と一緒に食事に出かけたり、外泊する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の管理能力の問題でご家族と相談、了承の上で事務所預かりとさせて頂いている方が多いですが、希望により買物時、外出レク時は本人にお金を渡したり立替の小遣いを持って頂き買物をして頂くよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯を持たれている方もいらっしゃるのですが、ご自分で操作できない方には支援したり、希望に応じてホームの電話で取次ぎを行っています。ホーム内には、専用の携帯電話もあるので、居室でゆっくり話せるようご家族にも説明し支援しています。能力に応じて手紙や年賀はがきを出したりなどの意欲を引き出せるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 台所は居間と続く対面キッチンになっており、食事支度の音や香りも利用者に届くようになっています。居間の窓からは庭が見え季節感も味わえます。季節に合わせた壁飾りを利用者と作成したり、温度や湿度にも気を配っています。</p> <p>(外部評価) 事業所内は床暖房が設置されており、寒い季節でも暖かく過ごせるようになっています。玄関や居間には季節の花を活けたり、手作りの物が壁に飾られている。ソファ等が適切に配置され、畳のスペースも作られており、落ち着いた雰囲気の中で利用者は、好きな場所でゆったりと過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや長椅子を配置し、畳敷きのコーナーもあり、それぞれが気の合う仲間と思いたい場所で過ごされています。食事のテーブル席も、利用者同士の相性も考慮し、席次を考えたり配置をしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 箆笥やテレビ、仏壇とそれぞれが思いの物を持ち込まれ各部屋毎に個性があると思います。居室によっては写真や絵などご本人にとって思い出のある物を飾り、安心して生活できるよう支援しています。</p> <p>(外部評価) 家庭より使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、利用者が使いやすいように配置したり、飾り付けがされている。掃除も行き届き、収納スペースも十分確保されており、落ち着いて過ごすことができるよう環境が整えられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室の表札やトイレの表示、個々の自立度、見当識にも配慮しています。たとえば、文字が読めない方に衣装ケースの整理をして頂く為に、ズボンや上着、それぞれの絵を描いたシールを貼ったり、苗字が同じ方の表札には、下の名前を大きく書いて、それぞれの居室の見分けが出来るようにしたり、見当識に配慮して、声かけにて、日めくりを日課にして頂く様、支援しています。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500536
法人名	有限会社 すまいる
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	伊予郡砥部町北川毛1442番地16
自己評価作成日	平成23年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の気持ちに寄り添い、安心して過して頂ける環境作りやコミュニケーションを大切にしています。
 また、現場での職員一人一人の意見を大切に、皆で考えて作り上げていけるホームを目指しています。
 ・個々の状態に合わせた排便観察を行い、出来るだけ自然排便を促せるよう、水分補給の促しや適度な運動、食べ物にも留意しています。
 ・体調に合わせ、足浴、マッサージ、立位、歩行訓練、可動域訓練や筋力低下防止になるようなケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然環境に恵まれており、利用者は季節を感じながら日々過ごすことができている。床暖房が完備され、寒い季節も快適に過ごす事ができるようになっている。玄関や居間は、家庭的な雰囲気づくりがされ、季節に応じた花や手作りの物が飾られている。事業所は町内会に加入し行事に参加したり、清掃活動など地域の一員としての役割も担っている。かかりつけ医の往診が月に2回あり、職員は利用者の健康面の把握もできている。また、緊急時には連絡体制が確保されており、利用者や家族も医療面で安心感を得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すまいる

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 池田 正代

評価完了日 平成 23 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分が住みたい場所」という事をキーワードにケアする時も常に自分に置き換えて見ると言う事を職員間で話し合い、意識づけしています。またホームが特別な存在ではなく、地域に根付いた開かれたものとして地域住民に溶け込めるよう、地区行事の参加やご近所との朝夕の挨拶等交流に努めています。</p> <p>(外部評価) 「自分が入居したくなるホームを目指す」ことを理念に掲げ共有しながら、地域の中で利用者の日々の暮らしを支えている。具体的なケア目標も作り、職員は常に自分に置き換えて考え、利用者にとって居心地のよい場所であるように心がけ、利用者主体のケアを実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区行事に参加したり、当ホームの行事には子供会や地区の役員さんの参加を呼びかけ、地区の一員として暮らす事を心がけています。ご近所からおすそ分けを頂いたり、近所の子供達が遊びに来てくれる事もあります。又、事業所自体も町内会の加入や回覧板の持ち回り、清掃活動等、地区住民と変わらない役割分担をしています。</p> <p>(外部評価) 事業所は町内会に入り、地域の秋祭りや小学校の運動会等に参加したり、地域の清掃活動に参加する等、地域の一員としての役割を担っている。回覧板で地域の情報が得られている。ボランティアの訪問や近所の子供達が気軽に遊びに来てくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進委員会のメンバーに在宅で認知症介護されている方もおられ、話を伺ったり、アドバイスさせて頂く機会も増えました。また、地域密着型になってからは、利用者や面会の方もスタッフの顔見知りである事も多くなり、以前より認知症介護の話題や相談が多く出るようになったので、少しは貢献出来ているかと思えます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の話題には、昼食会や消防訓練等、様々な行事への参加をして頂き、見学して頂く事で、多くの意見を出して頂く様にしています。また、外部評価のある年は評価結果も議題に取り上げ、話し合いを持つようにしています。	
			(外部評価) 会議には家族、地域住民、町の職員等の参加を得て開催している。食事会や消防訓練も兼ねて行う時には利用者也参加している。職員も交替で参加するようになっている。事業所の状況や活動報告の他、議題に沿って話し合ったり意見交換を行っている。出された意見はサービスの向上につなげている。	家族や地域の方へはホームページで会議の案内を行っているが、参加者が固定化傾向にあるため引き続き声かけを行い、様々な立場の方に参加してもらう等、今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村には定期的な講習会があり、参加しています。他に町の派遣事業の相談員が毎月訪問し、利用者の要望を聞いて下さり、担当職員と話し合いを持ったり、町担当課との連絡役となって下さっています。利用者に関する申請手続き等でも、随時、担当課を訪れています。	
			(外部評価) 町の介護福祉課の職員が運営推進会議に出席してくれており、日頃から連携がとれている。町主催の研修会が3か月に1回あり参加している。その際、他のグループホームの職員と交流する事ができ、情報も得られている。また、月に1回介護相談員が2名来所し利用者とは面談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ホールの入り口は夜間の防犯以外には施錠はしておらず、職員の見守りを重視しています。また施設内研修や回覧等での資料提供も行い、その意義を高める様、常に話し合いを持つよう努めています。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアを実践している。職員アンケートを実施し、職員会で話し合いを行っている。玄関は施錠しておらず、センサーを取り付けているが、見守りで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に一度、アンケート調査を実施し、日頃の支援を振り返り、職員会で話し合い、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 現在制度を利用されている方もおられ、外部研修にも出来る限り参加しています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族には十分な説明、話し合いをし、納得して頂いた上で契約しております。 契約後改正の加算報酬についても前もって文章にて連絡する等、その都度対処し、納得して頂いております。 また、長期の利用や重度化に伴う料金の負担など、必要に応じてご家族と相談させて頂いております。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 当ホーム内での苦情委員会の設置をご家族に明示し、ケア方針の説明も個別に行う機会を設け、その中で意見交換するようにしています。又面会時には管理者や職員がご家族と話す機会を持てるよう努めています。家族の心情も察して第三者苦情委員会の窓口も契約書類に明記しています。 (外部評価) 利用者に直接聞いたり、家族の訪問時や運営推進会議等で意見を聞くよう心がけている。家族が遠方にいる場合は、利用者に変化があれば必ず電話連絡を行い、希望や要望を聞いている。出された意見は、話し合いを行いサービス向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は職員会で意見や提案を聞く機会を作ったり、出来るだけ現場の声が聞けるよう個別に話かけたりしています。また運営者も個別に話しが出来る様、懇親会や幹部ミーティングを実施し、多くの意見を取り上げ反映出来る様、努めています。</p> <p>(外部評価) 2か月に1回ユニット毎に職員会を開催し、職員から意見を聞いている。管理者は開設時から勤務しており職員の定着率もよく、気軽に意見が言える関係ができています。また、運営者も職員の意見を聞く機会を設けており聞き取った意見は、運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 給与水準については同業他社等と情報交換し、一般水準は確保するよう努めている。 労働時間についてはなるべく残業しなくて良いように効率の良い仕事出来る環境整備を行っている。 やりがいについては職員個々が見出すものだと思う。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修を希望するものについては積極的に受講するよう推奨し、受講費用等の負担は会社にて行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 代表者、管理者レベルでの交流は行っているが、職員については個々に任せている。人員に余裕が出来れば取り組んでいきたい。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者ご本人が見学に来られない場合も、こちらから面会に伺い話を聞かせて頂きコミュニケーションをとりながらご本人を知る事、私たちを受け入れて頂くことから始めています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも面接時や契約時には十分な話し合いを行い、意向を確認しながらケアの方向性を決めて説明しています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い本人の現状を把握し、医療的なサービスの提供の必要がある場合等は医師と相談の上、外部のサービスも取り入れたり様々なサービス案を検討しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事やおやつ等、一緒にテーブルで過ごす時間を大切に、常に利用者の傍らに寄り添いながら共に生活している仲間という意識で、それぞれが出来る事を一緒に行っています。また、会話をする中で利用者から学ぶ事も沢山あります。利用者も自分主体の場面設定では、生き生きした表情が伺えます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には食事介助や散歩等を一緒に手伝って頂いたり、外出レク時にもお誘いしています。また日常生活の中でご本人が家族さんに関わる言葉や思い出が話されたりした時には、面会時に話しの話題にさせて頂き一緒に過ごしていない時間の距離を埋めて頂けるよう努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 職員同士の情報交換を常に持ち、ご本人、ご家族からアセスメントした交友関係も出来る限り把握してケアにあたっています。たとえばご本人がよく買物に行かれていたスーパーに買物に出かけたり、知り合いにお会いした時には少しでも話しが出来る時間を作っています。 (外部評価) 町内の方が多く入られており、利用者同志が幼馴染みだったり、職員も知り合いである等、昔の懐かしい話をみんなですることもある。近くの蓮池の花や蓮根掘りの見学等は恒例の行事になっている。近くのスーパーに買い物に行ったり、町の文化祭に出かける等馴染みのある場所にも出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一つのテーブルに集って話しをする機会を作ったり職員が橋渡しをする事で、普段あまりお話をされない方でも楽しく会話されています。また個人の性格を把握し相性も考慮してテーブルの配置等も気をつける事で、それぞれが出来る事を助け合い生活されていると思います。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家庭の事情で住み替えが必要となった方には移り住む先の関係者と今までの生活状況を詳しく説明する機会を持ったり、ご自宅に戻られた方には、電話連絡等でその後の様子を伺ったり、少しでも相談に乗れる様努めて来つもりです。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者と共に過す時間を重視し、会話や仕草の中から本人の意向や希望を把握し、出来る限り希望に副えるようケアカンファレンスを行い、実行出来るよう取り組んでいます。困難な場合にも職員間で情報交換し対応できるよう努力しています。 (外部評価) 日々の暮らしの中で利用者に聞いたり、家族の訪問時に要望を聞いたりしている。利用者との会話の中から情報を得たり、表情や態度等からも把握して支援している。職員が得た情報は、回覧ノートや業務ノートに記録し申し送りを行い、職員間で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日頃の会話の中で本人の生活歴が聞けるような働きかけをしたり、家族面会時には出来るだけ多くの情報を頂ける様、話し合いを十分に行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 時間の許す限り寄り添い、心身状態の変化を見逃さない様、努めています。 また、個別の介護記録や健康管理表に記録し、スタッフ全員が目を通す事で、常に情報交換出来るようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には家族の希望も事前にお聞きし、常にスタッフ全員で定期的にモニタリングして意見交換しています。また担当スタッフによる計画案を反映し、全員が同じケアに取り組む中で日々起こる問題点や改善点を早急に対応する為、常に意見交換する事を心がけています。 (外部評価) 利用者や家族の希望や要望を聞き、担当の職員が原案を作り、職員で話し合いを行い介護計画を作成している。計画の実践状況は、ケアチェック表に記録している。また、ケアカンファレンスで計画についても話し合いを行っており、3か月に1回モニタリングを行い必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録や情報交換ノートの活用により生活、身体状況を把握し、ケアカンファレンスを定期的に行い職員間で共有する事で見直しに活かす事が出来ていると思います。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅マッサージやリハビリ通院の介助、衣料品や食料品の買物に同行したり、時には外食等本人の要望や身体的状況に応じて多機能化に取り組めるよう努力しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 警察、消防、地区消防団の方には日頃から災害時等の協力をお願いしています。また町の文化祭や小学校運動会等、行事への参加や地域住民の方のボランティアもお願いし、来て頂いております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホーム担当の主治医がいる為本人及び家族に事前に説 明し納得して入居して頂いてますが、長年のかかりつ け医がいる場合は主治医と相談しながら出来る限り本 人の希望に沿えるようよう支援しています。 (外部評価) ほとんどの利用者が事業所の協力医療機関をかかりつ け医としており、月2回往診してもらっている。往診 記録により、職員も利用者の健康面の把握を行って いる。眼科や皮膚科等の受診は、利用者の希望を優先さ せて支援している。受診は家族が行く場合もあるが、 職員が同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内にも看護師がおり、医療面での状態変化のも早 急に気づいて対応出来る様にしています。また協力医 療機関の看護師は、往診、受診時には必ず同行して利 用者の状態も把握して下さっており、電話や面会での 相談も気軽に出来る関係を築いています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関が総合病院であり、入院の殆どのケー スが協力機関への入院の為これまでに日常的にも情報交 換や相談が出来ています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りを行った経験はまだありませんが、ご本人、家 族の意向を、出来る限り尊重したいと考えておりま す。 運営推進会議でも取り上げ、ご家族、行政とこれか らの方向性について、話し合う機会を作っています。 (外部評価) 看取りの指針を作成し、利用者や家族の希望があり、 事業所で看る事が可能である場合は、看取りをするこ とを方針としている。利用者の状況に応じてその都 度、かかりつけ医、家族、運営者、管理者、職員で話 し合いを行い、支援する事としている。	利用者の重度化や終末期を事業所で支援するた めには、かかりつけ医との連携や家族、管理者、看護師、 介護職員等チームでの支援が必要である。重度化や終 末期におけるケアについての職員の教育や研修の受講 等を継続して行うことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではありませんが、年に1、2回施設内研修を行ったり、外部研修の参加を実施しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に一度消防署にご協力して頂き、ご家族や地元住民の方にも参加頂いて、防火訓練や非難訓練を行っています。また地域消防団、地区役員、ご近所の方へ常に協力をお願いをし、承諾を頂いています。 (外部評価) 年に1回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行い、アンケートを実施して意見交換している。スプリンクラーの設置もしている。地域の消防団の方等に協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけには十分注意し、相手の気持ちになって考えながらの対応を心がけています。 たとえば、当たり前の事ですが、個々の名前をきちんと呼んだり、自力でゆっくり食事する利用者を急かす事なく見守ったり、トイレ誘導を小声でさりげなく行ったり、着替えやトイレ時の介助の際、ドアをきちんと閉める等、プライバシーに十分配慮するようにしています。 (外部評価) 職員の声かけは穏やかで、昼食時の会話からも利用者との信頼関係がうかがえる。食事に時間がかかる利用者に対しても、声かけをしながら見守っている。歯磨きやトイレの誘導もさりげなく行われており、着替えも部屋で戸を閉めて行う等、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 顔の表情や仕草等を見て、本人の訴えを見逃さない様、心がけています。また、声かけや促しだけでなく、色々な場面設定をしながら、ご本人が自己決定出来るような働きかけをしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 会話の中で希望を伺ったり個々の性格にあったご本人が出来る事を見出して促しを行います、無理強いをしないように心がけています。また食事や入浴以外の空き時間は、出来る限り本人のペースを大切に出来るよう見守っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服等汚れ物をさりげなく交換したり、本人の好みを取り入れ、季節、天候に合わせた洋服を本人が選べるよう場面設定を工夫する事で支援しています。それぞれに、気に入った化粧品や装飾品等も使用しておられます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物を取り入れたり、献立を一緒に考えたり、食事の支度を手伝って頂いたりしています。食事形態や食器、スプーン等も個々により様々で、ご自分の力で少しでも食べれるように支援しています。 また、食事中は好きな音楽を聴きながら、ゆったりした環境の中で、職員や他の利用者とも会話を楽める様、橋渡しをするなどの支援に努めています。	
			(外部評価) 食事は利用者の希望を聞いて、季節の物を取り入れながら献立を立て、調理担当の職員が利用者の状態に合わせて調理している。利用者の重度化と共にできる事は少なくなってきたが、できることは無理のないようしてもらっている。職員は利用者の横に座り、利用者へ声かけしながら一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材に野菜を多く取り込み、1日のメニューでなるべく重ならない様にしています。毎食後の食事量をチェックしたり、水分もバランスを考え、色々な飲み物にして提供しています。また、2週間に1度は体重測定を行い、個々の健康管理にも留意しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の健康状態、能力に応じて見守り、介助をしています。週に1度は義歯洗浄を行い、舌ブラシやガーゼ、歯磨きティッシュを利用し、個々の能力に合わせて見守り、介助を行い、口腔状態の観察に留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表の活用で、一人一人の排泄パターンを把握し、時間を見て声かけやトイレ誘導を行い、出来る限り失禁をなくすよう努めています。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し支援している。自分から意思表示する人もいるが、時間を見て声かけを行い誘導している。夜間は定期的に訪室する等、利用者の状態に合わせて対応している。排便については、水分や食事等気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく薬に頼らない様、ヨーグルトや寒天ゼリーなどを摂取して頂いたり、水分補給にも留意しています。また、腹部マッサージや適度な運動を促し、予防にも努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 設備上の問題から、曜日や時間帯は決まっていますが、入浴の順番など、その日の気分や体調により配慮しています。入浴中もご本人が安心出来る様、職員が声かけや会話に気を配ったり、入浴剤等の使用で、香りを楽しんで頂いたり、利用者がくつろいで入浴出来るよう努めています。	
			(外部評価) 利用者の希望に沿って入浴支援を行っている。利用者の入浴日も把握して、気持ちよく入ってもらえるよう心がけている。1階の浴室には座位で入れる設備が整っており、状態に応じて安楽に入れるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内温度、明るさ、音に気を配り、個々に合わせた睡眠が確保出来るよう支援しています。また寝付けない方には飲み物の工夫や声かけにも気をつけ、安心して眠れるよう体調管理にも留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を職員全員が目を通し、連絡ノートの活用により変更等の確認が出来るようにしています。服薬支援時もダブルチェックをし、誤薬や飲み忘れがない様注意し、状態変化も細かく記録に残すよう努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を活かし、機能、能力に応じて本人の出来る事を楽しんで頂ける様、支援しています。今ではそれぞれに役割が出来ており家事や新聞とりなど、ご本人から声をかけて下さる事が多く、職員のお礼の言葉に笑顔で答えて下さる場面も見られます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外気を浴びれるよう散歩や外気浴の促しを行い、希望に副って、買物やドライブに出かけるなどの選択が出来る様な働きかけをしています。住み慣れた地域での交流も促せるよう、地区行事の参加を積極的に行っています。 (外部評価) 事業所の周囲には季節を感じる事ができる自然があり、天気の良い日には散歩に出かけている。利用者の希望に応じて買物や喫茶店に出かけたり、ドライブに行くこともある。地域の行事等にも積極的に参加できるように計画を立て支援が行われている。家族と一緒に食事に出かけたり、外泊する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の管理能力の問題でご家族と相談、了承の上で事務所預かりとさせて頂いている方が多いですが、希望により買物時、外出レク時は本人にお金を渡したり立替の小遣いを持って頂き買物をして頂くよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯を持たれている方もいらっしゃるのですが、ご自分で操作できない方には支援したり、希望に応じてホームの電話で取次ぎを行っています。ホーム内には、専用の携帯電話もあるので、居室でゆっくり話せるようご家族にも説明し支援しています。能力に応じて手紙や年賀はがきを出したりなどの意欲を引き出せるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 台所は居間と続く対面キッチンになっており、食事支度の音や香りも利用者に届くようになっています。居間の窓からは庭が見え季節感も味わえます。季節に合わせた壁飾りを利用者と作成したり、温度や湿度にも気を配っています。</p> <p>(外部評価) 事業所内は床暖房が設置されており、寒い季節でも暖かく過ごせるようになっています。玄関や居間には季節の花を活けたり、手作りの物が壁に飾られている。ソファ等が適切に配置され、畳のスペースも作られており、落ち着いた雰囲気の中で利用者は、好きな場所でゆったりと過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや長椅子を配置し、畳敷きのコーナーもあり、それぞれが気の合う仲間と思いたい場所でも過ごされています。食事のテーブル席も、利用者同士の相性も考慮し、席次を考えたり配置をしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 箆笥やテレビ、仏壇とそれぞれが思いの物を持ち込まれ各部屋毎に個性があると思います。居室によっては写真や絵などご本人にとって思い出のある物を飾り、安心して生活できるよう支援しています。</p> <p>(外部評価) 家庭より使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、利用者が使いやすいように配置したり、飾り付けがされている。掃除も行き届き、収納スペースも十分確保されており、落ち着いて過ごすことができるよう環境が整えられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室の表札やトイレの表示、個々の自立度、見当識にも配慮しています。たとえば、文字が読めない方に衣装ケースの整理をして頂く為に、ズボンや上着、それぞれの絵を描いたシールを貼ったり、苗字が同じ方の表札には、下の名前を大きく書いて、それぞれの居室の見分けが出来るようにしたり、見当識に配慮して、声かけにて、日めくりを日課にして頂く様、支援しています。</p>	